



## お江戸舟遊び瓦版 1087号

水彩都市江東 ころも美しい日本の再生 安全・安心まちづくり

お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

## 江東区助け合い活動連絡会第17回研究会「住民主体の地域づくりと人材養成」

日 時： 25年2月10日(月) 13:30~15:30

所： 高齢者総合福祉センター 3階研修室

司会進行：小林孝事務局長

## 1. 開会挨拶：渡辺恵司副代表

能登半島のように津波など起こらないとは限らない。  
防災等に地域の人材づくりが今ほど必要な時はない。  
阪神淡路大震災で活躍の中村さんを講師にお願いした。

## 2. 事例報告：「住民主体の地域づくりと人材養成」

中村順子 (NPO コミュニティサポートセンター神戸 理事長)

## 1. NPO コミュニティサポートセンター神戸

- 1995年1月の阪神淡路大震災発生で6600人死亡。  
助かった人の7割が近隣の人に救出された。
- 1996年10月、大震災直後の救援組織から市民が市民を支える民間中間支援組織を設立。地域課題解決のグループ創出が重要目標。年間約50団体創出、通算で1000団体。年間事業規模 約80,000,000円
- 理事長：中村順子、事務局長：飛田敦子、役員9名、スタッフ約35名、ボランティア約150名
- 市内4拠点でグループ創出、運営支援

## 2. 1995年阪神淡路大震災からの教訓

## 3. 進化したさまざまな地域活動

- 話し合いの場、食事作り、配食弁当
- 公園緑化、公園整備
- お絵かき、地域巡り、移動送迎支援

## 4. 地域の居場所・通い場

- 集会所活用型、空き店舗活用型、空き屋活用型：子供がつくるこども食堂など
- 一寸寄り所 → 生活にハリ、信頼できる人に出会える、視野が広がる、課題解決の実践

## 5. 常設型居場所

- 幅広い世代や分野が集まり、自ら主体的に地域課題に取り組む起点
- 地域づくりの究極の切り札：多世代参加型地域活力プラットフォームモデル

## 6. 労働者協同組合ワーカーズという選択：社員全員の出資・経営・運営

- 助け合いケア労働者協同組合ヘルパント：デイサービス補助、生活支援
- 労働者協同組合グリーンクルー：商業施設等植栽管理
- 労働者協同組合甲南げんき村：16地域団体と共同化した居場所

## 7. 住民主体の解決力を育てるものは何か：

知らせる：行政とすり合わせ、生活者の生の声の炙り出し

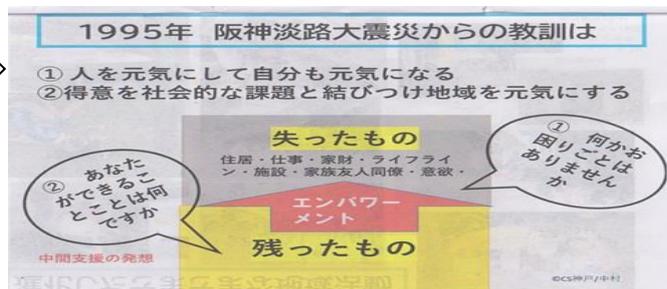
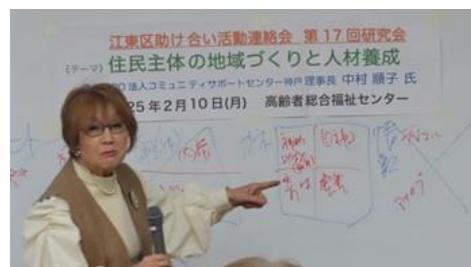
探し出す：未生活者への働きかけ、同様の共感者紹介

育てる：寄り添った課題提案、仲間化支援、試行機会

## 8. まとめ：● 人・多様な人の繋がり、▲ お金(会費、事業収入、補助金、寄付)、■ 情報

NPO：できることを、できる人が、できる時に

所感：一人ひとりの自覚・自分事化で、誰一人取り残さない、つながる社会創りが必要とのこと。



## 北砂まぜこべマルシェ

日時：3月15日 11:00~14:00

所：ゆめ工房

はじめに

2027年に江東区北砂において、全ての人たちにとって安心できる居場所の開所を目指している。

それに向けて、近隣の方々との相互交流の場づくりをはじめ、施設に必要な情報収集やネットワーク創りのため、毎月第3土曜日に、定期的にマルシェが開催されている。

江東区内に広がる福祉施設と一般的な事業者をまぜこぜにしたマルシェで、特徴は障害者施設で働いている仲間が、全てのブースで様々な業務を出店者とともにやることにある。人びとが買い物の中で自然な形で、障害ある人と触れ合える機会を創り出している素敵なマルシェとなっている。

こども食堂ならぬ誰もが食べられるユニバーサル食堂は沢山の人の交流の場・安心できる居場所となっていた。災害列島化しつつある日本にとって人と人の交流こそ大切なものはない！！



食堂の受付さん



街と人の架け橋・移動販売車



リサイクルショップ



パン屋さん



皆でお餅つき



おもちゃ屋さん



裏方は大忙し



リサイクル自転車



輪投げ遊び

**所感:** いろんな障害があっても住みなれた江東区で働き生活したいという願いを実現するために作業所やグループホームや地域支援センター運営など様々な活動の“ゆめ工房”が中心になり地域の相互交流の場を創り出している貴重なまぜこぜマルシェに参加することができた。（文責 中瀬）